



## サマーパーティー 初のオンライン開催で乾杯！

2020年9月5日(土)、毎年恒例のサマーパーティーが行われました。今年はコロナ禍を受けて、初めての試みであるZoomでのオンライン開催に。池田幹事長のアイデアで、参加者31名を5、6人ほどのグループに分け、Zoomの機能を使って30分毎にメンバーを自動シャッフル。2時間ほどの間にひとり当たり4つほどのグループに加わり、その都度別々のメンバーと会話するという方式でした。



これくらいの人規模のリアル飲み会だと、あちこちで数人ほどの会話クラスター？が自然発生しますが、オンラインでも案外と同じような雰囲気を作りだせるのは、ちょっと新鮮でした。初対面でもすぐに打ち解けられる三田会ならではの居心地の良さに加えて、次のシャッフルではどんな人と一緒になるかなというオンラインゆえのワクワク感も手伝い、グループが変わる毎に会話もスムーズに進行していく感じに。

昨今の情勢から、話題はコロナ禍の「巣ごもりライフあれこれ」になりがちでしたが、皆さんそれぞれに自分なりの楽しみ方、過ごし方を開陳し、コロナ禍自粛生活「あるある」話で盛り上がりました。他のグループではギターでの即興演奏や、オンライン詐欺？の被害に遭った会員の自宅に訪れた警察官の実況見分の生中継(笑)とか、参加者のご息子が飛び入り参加して、コロナ禍での留学という貴重な体験談を聞くなど、思わぬ世代間交流も。

ひとりの発言中は他のメンバーは全集中してその人の話に耳を傾け、大きく頷いてリアクションする「オンライン飲み会」の作法(笑)にも皆さん忠実。そこは良識ある紳士淑女揃いの調布三田会の皆さん、と初参加の私は、そんなところにも感心しきりでした。各人それぞれが設定したZoomの背景画面にも個性が出て、「〇〇さんのバックの海の真ん中に浮かんでいるのは船ですか」「ええ、釣りが趣味でして先日伊東沖に」とか、そんなところからも趣味や人となりが見えるなど、楽しい時間でした。

あっという間に過ぎる30分を4回繰り返して、お開き近くには、応援指導部の神宮球場での実際の応援動画をバックに、心の中で肩を組んで「若き血」を画面越しに斉唱。「いろいろと制約はあるが、これからは工夫して会員の交流を図っていきたい」との堀尾会長の締めめの挨拶を受け、池田幹事長が閉会を宣して締めくくり、約2時間のオンラインサマーパーティーは、盛会のうちにお開きとなりました。 平井信太郎(H1文)



## 多摩川クリーン作戦

地域貢献に積極的に参加を!

11月8日(日)、薄曇りの中、朝8時より1年半ぶりに多摩川清掃活動が開催されました。昭和54年より春秋の2回実施され今回で81回目となる当日は、長友市長を含めて会員9名が参加しました。

近年は、この多摩川の河川敷のごみは少なくなっていると伺っていましたが、今回初参加して、多くの家庭ごみが廃棄されているのを目の当たりにしました。1枚の割られた窓ガラスをそのままにしていると、さらに割られる窓ガラスが増え、いずれ街全体が荒廃してしまうという「割れ窓理論」がありますが、まさに本活動が私達の街の荒廃を防ぐ一助となっていることを実感しました。

岩東清茂(56商)



## 野川クリーン作戦

11月21日(土) 稲門会とともに

絶好の秋日和、野川クリーンアップ作戦に初参加。中島橋に新会員深浦さんも含め8名集合、多摩川の規模に比べるとちょっと寂しいですが、市の職員の説明があり、稲門会の皆さんと共に記念撮影後に一斉スタート。上流に向かうが、予想していた以上に綺麗でゴミが見つからない。日本人のモラルを感じる、宝物探しのゲーム感覚で目を凝らす。土手沿いに行き、やっと空き缶、紙ごみ等を拾う。嬉しいやら妙な感覚。清掃エリアには3本の旗が立つ、次の旗の橋を折り返す、熊手が捨ててあったので場所を確認し、市の職員に伝える。終了後、私は所用で参加できませんでしたが皆さんは楽しい昼食会へ、うーん残念。 波田芳信(48政)



## 調布探訪⑧ — 「実篤公園」 散策—

前回44号で紹介した「ちょうふ八景」のひとつ「実篤公園」を訪れました。仙川からは桐朋学園のフェンスに沿って歩き、さらにしばらく行くと、あのかぼちやの絵が迎えてくれます。1955年に武者小路実篤が70歳で転居して20年間を夫人と暮らしました。没後に調布市に寄贈され、公園、邸宅は無料で見学できます。

邸宅は高い船底天井と広いガラス窓が特徴的な、開放的で気持ちのいい造作です。蔵書や家具調度品も当時のままに保存されています。ボランティアの方の話では、生前地元の祭りで神輿が坂を下って玄関まで来ていたと伺い、地元でも愛されていたと感じました。

国分寺崖線の急斜面を利用した変化にとんだ庭園です。深い緑と鳥の囀りが心地よく、ニジマスが泳ぐ中腹の池では、ゴボゴボと音を立てて水が湧き、下の大きな池へと流れています。「水のあるところに住みたい」との実篤の思いが調布でかなえられました。

こじんまりした「記念館」は入館料200円。訪れる人も少なくのんびり静かに見学できます。展示物は決して多くはありませんが、無骨で誠実な人柄がしのばれる生原稿や、閲覧室では雑誌「白樺」を手にとれるなど、それなりに楽しめます。「友情」「愛と死」

「真理先生」など、筆者も中学生の頃には、あの楽観主義的な人生肯定に魅了されたものです。

記念館を出るとコンクリートに囲まれて入間川が流れています。昨年秋に外環道工事の影響で道路が陥没した現場はすぐ近くです。帰り道は京王線の線路沿いに坂を登ればまもなくつつじヶ丘駅ですが、入間川の流れて住宅街を歩き、野川に突き当たって川沿いの遊歩道を遡れば、国領までのちょっとした散歩コースになると思います。

米持一夫(55経)





## 調布三田会ギャラリー<2>

松島俊章 昭和46年工卒

会員の皆さんの作品を紹介する第二回目として、個展も開催している松島俊章君の絵画を紹介します。松島君はテニス同好会で活躍中です。

Q 絵はいつごろから始められたのですか？

A 幼い頃からずっと絵を描くことが好きで大学時代もパレットクラブに入り、おもに油彩をやっていました。会社に勤めてからはなかなか描けませんでした。暇

を見つけて細々とですが続けていました。

Q 銀座で個展をされたそうですね？

A たまたま縁あり 2018年に銀座新井画廊(社長が慶應の先輩)で個展を開くことができました。開催期間中、小・中学校時代の幼なじみ、高校、大学時代の友人、会社時代の先輩、同僚、部下、そして調布三田会からも多くの方々に来て頂き、「生前葬」のようでした(笑)。

Q これからの目標はありますか？

A 音楽を感じさせる、リズムとメロディーの聞こえるような画を描きたいですね。



絵 1

原始の涙：厚紙にポスターカラー。大学院時代



絵 2

マテーラの洞窟住居：紙にペンと油彩。家内と南イタリアを旅行した時のマテーラの風景です。雑誌「一枚の絵」で佳作入選した作品



絵 3

地中海：銅版画(エッチング、アクアチント) 音楽を画に表現しようと試みた第一作、2020年8月作成の作品

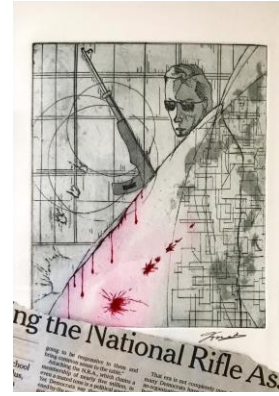


絵 4

リスボン：紙にペンと油彩。出張で行ったポルトガルのリスボンの街角を写真に撮って帰り描いた作品



自宅ギャラリーにて



絵 5

暗殺者：銅版画(エッチング、アクアチント)とコラージュ。ポーランド映画「灰とダイヤモンド」の主人公マチェックをイメージした作品

Q 絵の他にはどんな趣味がありますか？

A テニスと囲碁です。

Q 種類の異なる趣味を切り替えて楽しむ秘訣は？

A 「その気になって熱中する」というところでしょうか。テニスをやっている時はフェデラーに、囲碁をやっている時は井山裕太に、絵を描く時はピカソになった気になる。もちろんその気になっているだけです

らフェデラーのようにプレイできる訳はなく、レシーブに失敗したら、「今はフェデラーでも取れない」絵がうまくいかない時も「ピカソでも駄作はある」とさっと諦めメゲナイことですね。「一人よがり」大いに結構、趣味なのだから」と思っています。

聞き手：益子淳(43法)

## テニス同好会

世話人：益子淳 mashiko@teq-kobo.com

### 「100歳でテニス！」を目指して

コロナの中で3～4月はテニスコート閉鎖でできませんでしたが、幸いコートが早めに再開され5月からはプレイできました。9月迄は私的活動に抑えましたが、10月からは三田会として定例活動を行っています。3密を避けるため、夏と冬のコンパは中止しましたが皆元気でプレイしています。さて、調布三田会も高齢化社会に突入し、会員平均年齢70歳、テニス同好会も68歳になりました。あと10年たつとどうなるか？年を取れば誰もが障害(年齢も障害です)をもちます。障害を持つと、良識ある人は、他人に迷惑をかけてはいけないということで引退(気を遣って)していきます。テニス同好会では、コートに立てなくなればしょうがないですが、立てるならやり続けたいと云う人にも今から続けられるルールを作っていこうと考えています。あるクラブでは、80代の方6名で毎週2回1時間、ゆっくりラリーをして最後にのんびり試合をするという集まりがあるそうです。まだ計画段階ですが、「100歳でテニス！」を目指して、“スローテニスコート作り”など“簡単に引退しないよう”皆さんと共に考えていきたいと思っています。



## そば打ち同好会

世話人：石黒良昭 brack-stone@jcom.home.ne.jp

1月、2月と例会を開催して以降コロナウイルス感染症が拡大し始め、「たづくり」が使用できなくなり例会を休止しました。先行きが見通せない日が続く中、三鷹三田会藤木健さん(41 経)の発案で、少しでも“そば”を忘れないように「二八通信」と題してそば打ちに関するヒントをA4一枚にまとめ、5月から6月にかけて3回発信しました。その後状況がやや落ち着きだし、7月15日ようやく例会を再開しました。参加者は6人と普段より少なく、マスク着用、検温の確認、手指消毒等、感染防止対策を徹底しました。そば打ち後の懇親会はしませんでした。久しぶりのそば打ちを楽しむ事ができました。10月21日(水)の例会に続き11月18日(水)に第114回例会を7人の参加で開催しました。新そば粉が入り、香りも味も良いそばを打つことができました。毎年実施している児童養護施設朝陽学園でのそば打ちボランティアも今年は中止としました。コロナウイルス問題が解決するまで時間がかかりそうですが、感染防止対策を徹底しながら地道に活動を続けていきたいと考えています。



## コロナ禍の幹事会

調布三田会では秋の音楽会や福祉バザーが中止になり、同好会も活動が制約されています。幹事会も5月以降毎月オンラインで実施していますが、10月の幹事会は、中止となった音楽会の会場「たづくり」12階大会議室を活用して、十分なソーシャルディスタンスをとって「リアル」で行いました。さらにZoomシステムで、出席できない幹事を大スクリーンに映して「ハイブリッド会議」としました。事前準備や運営にはかなり工夫しましたが、オンラインを含めた参加人数は通常より多く充実した論議が行えました。

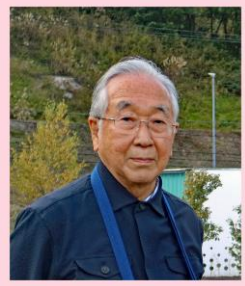
11月以降もハイブリッド方式で幹事会を続けていきます。今後もいろいろと知恵を絞り奮闘していきます。





## 俳句と私 名和道男(30法)

福沢先生の言葉に「恰も一身にして二生を経るがごとし」がありますが、次元は低いものの私もそれに近い思いがしています。一つの生は40年の銀行員暮らし、もう一つは30年近くの俳句生活です。



現在、私は「草の花」という200人の結社の主宰をしておりますが、俳句へのきっかけは、三田会でした。現在も続けている「調布三田会丘の上句会」は約30年前に発足しています。一人だけ「畦」の同人がおられました、私を含め他は素人ばかりでした。回を重ねるうちに「これでは進歩は期待できないので、どこかの俳句結社に入ろう」と福島千冬(37経 俳号壺春)さんと相談し、西荻窪で発足したばかりの「草の花」に入会しました。平成5年のことです。

それから20数年、私も壺春さんも俳句を続けています。私の方は、俳句が性に合っている事がわかり、のめりこんでいましたが、平成16年に師藤田あけ鳥さんが亡くなり、巡り合わせで、私が「草の花」の二代目主宰に就くことになりました。主宰になってからでも既に16年になりますから、かなり長く「俳句」に関わって来たこととなります。

俳句に不案内の方も多いと思いますが、日本人なら「五七五」のリズムは自然に身につけていますから、始めてみれば、違和感なく続けられると思います。俳句の良さは「年をとっても続けられる」ことです。現に私は米寿ですし、「草の花」には90歳以上の方もかなりおられます。ということは俳句を作り続けることにより、脳のどの部分かに良い刺激が与えられ、自然にボケ防止になっているのだと思います。



俳句を続けていると「自然現象」にも敏感になります。例えば月や星の動きを注視するようになったり、植物や鳥のことを細かく観察するようになります。私は、鳥は詳しくありませんが、植物、殊に野草には随分詳しくなりました。日本は美しい自然が随所に見られる国です。それを俳句で表現しようと努力することは大変楽しいことです。

「丘の上句会」は、毎月1回の開催で、既に350回を超えています(その割に進歩がないとの意見もありますが)。また「草の花」にも「調布句会」があり、毎月第1木曜に「たづくり」で開催しています。

我田引水ではありますが「調布三田会丘の上句会」と「草の花俳句会」は常時会員募集をしていますので、一度、見学にでもいらしてみてください。歓迎します。

## 丘の上句会

世話人：寺川徳子 nontera-cleo@jcom.zaq.ne.jp

名和さんの指導も受けながら月1回の句会を催しています。是非ご一緒に俳句で遊びませんか。皆さんの参加をお待ちしています。

- |                                     |                                 |                               |                                 |                                |                                 |                                |                                   |                                 |             |               |            |
|-------------------------------------|---------------------------------|-------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|---------------------------------|--------------------------------|-----------------------------------|---------------------------------|-------------|---------------|------------|
| 風花や対の白狐のなおいし<br>おしくらまんじゅうどの子も同じ大地の子 | 大菩薩嶺翳りて桶に桃ひとつ<br>寅彦忌山羊とあだ名の理科教師 | 木漏れ日の草堂一字薊ゆれ<br>残照にカリヨン響き落葉舞う | 則天去私喜寿迎へての鬼やらひ<br>恙なく喜寿も過ぐるや冬紅葉 | 一葉忌炊き立て飯に卵かけ<br>小夜時雨独りの土鍋吹きこぼれ | 月天心丹後の海に尾を曳きて<br>オホーツクの風の起伏や大花野 | 千住葱さげて渡るや橋二つ<br>みくまりの流れの翳りはな山葵 | けふの日の暮れゆく枝垂れ櫻かな<br>アマリリス戦後は遠し草田男も | 老少不定身につまさる除夜の鐘<br>夏霧に町の灯あはき傘雨の忌 | 山々の乾きて鴟の贅乾く | 三万余日生き来てけふの蜷汁 | 丘の上句会 自薦二句 |
| 高瀬 一郎                               | 片岡 信子                           | 奥山 敏                          | 阿部 倫久                           | 藤枝 とし子                         | 寺川 英由                           | 川原 西絲                          | 福島 壺春                             | 山崎 和彦                           |             | 名和 未知男        | (卒年順)      |

## 「with コロナの日常」 編集委員の座談会

2020年2月から始まった「with コロナの日常」は、調布三田会のメンバーにも大きな影響を与えています。10月末に現役世代の会報編集委員が集まって、各自の仕事の変化について座談会形式で話し合いました。



**<鈴木>** 皆さん、コロナ禍での仕事の状況はいかがですか？それぞれの仕事も紹介して頂けますか？

**<米持>** 私は、保険会社から関連の会社に移って全損になった車両のネットオークションの仕事をしています。もともと iPad と携帯があればできてしまう仕事だから、コロナになって、自宅でできる人は自宅でとなって、3月の頭からずっと在宅勤務で、その間会社に出勤したのは2回だけ。

**<全員>** え〜っ! ?

**<米持>** オンライン会議は、週1でやっているんですけど、本当はもう少し会社に行って打ち合わせをしたい。在宅とはいえパソコンと電話の前からは離れることができない毎日で、まるで閉門・蟄居状態です。

**<上村>** 私は社労士なので、基本的にはクライアントの会社に行って、労務相談のコンサルをするのがメインの仕事です。それほど仕事のスタイルは変わっていないつもりだったのですが、3月の末くらいから顧問先への訪問が減って、4月7日の緊急事態宣言からは行かなくなっていました。3月は雇用調整助成金(雇調金)の騒ぎがあって、すごくしんどい月でした。



上村美紀君(H1文)

相談の電話がバンバン来るし、国の制度変更もある。Zoom 会議をやるんですが、微かなニュアンスを伝えられないので、私は苦手なんです。そこは会社に来てもらったり、私が行ったりして、スタイルはあまり変わっていないけれど、雇調金という余分な仕事がバーンと来て、猛烈に忙しかった。仕事が5倍か6倍になっていました。

最近では、ルール作りの相談に乗ったり、解雇に関する相談を受けたりするようになっていました。

**<米持>** いまは出勤はしているの？

**<上村>** 今はもうほとんど平常に戻ってます。3月4月くらいは動かなくて「引きこもりもできる！」って思いましたが(笑)。最近は、顧問先も8割くらいは普通に出勤しているし、私も9月末で落ち着いて愚痴も言えるようになりました(笑)。

**<込山>** 僕は製造業で質のいいソフトを効率的につくることの出来る技術を現場に展開するのがメインの業務です。他にも、国際資格を使って対外コンサル業務を支援したり、学会や委員会で海外出張をしたりしています。4月以降は、出勤しないと仕事が出来ない部署以外は基本テレワークで、僕もほとんど会社に行っていないです。



込山俊博君(60理)

仕事は全部オンラインで、打ち合わせは Zoom か Teams、検討が必要な資料は「共有フォルダに入れておいてね、見とくから」という感じ。自宅はネット環境が不安定で、ぶちっと切れたりするので、絶対切れたら困る講演とか会議

とかがあると、そのときだけ会社に行っています。国際会議を主催するようなときには、会議室をずっと確保してやっています。家でやると雑音が入るんですよ。

**<鈴木>** 救急車とかの音が入るんですよ(笑)。

**<平井>** 蝉の声とかも入りますよね(笑)。

**<上村>** 部署ごとに会社に行く部署と行かない部署があったときに、お給料が同じで不公平だという声はないですか。私は顧問先で言われることがあるので。

**<込山>** 会社で定期的にアンケートを取ってるんですが、そういう不満は聞こえてこないですね。東京オリンピックに備えてテレワーク環境の整備が進められていたのですが、コロナで一気に前倒しになりました。

**<平井>** 定期代どうするの？という話も出てきますね。

**<上村>** 殆どの顧問先は入社時だけの実費精算ですね。

**<込山>** うちも最近制度が変わってそうになりました。

**<米持>** うちも貰ってる。その代わりに家で仕事する電気代やプリント代などは自己負担。

**<上村>** その制度作りを、今やっているんですよ。みんなが不満に思うのがプリンターのインク代。仕事の書類を家では印刷させないという会社がありますね。

**<込山>** 僕はネット経由で会社の PC にアクセスして仕事しているので、家のプリンターには出せません。インク代はかかりませんが不便なこともあります。

＜平井＞私は新聞社のビジネス部門で主にマーケティングの仕事をしています。具体的には読者調査や広告の効果測定、読者への情報発信、マーケティング情報誌の編集長などです。4月、5月は完全にテレワークでしたが、今は週3くらい出勤しています。



平井信太郎君(H1 文)

他には、会社から派遣されて業務外で大学の授業を1コマ持っていて、5月からオンデマンド授業が始まったので、その準備が大変でした。たまたま家をリフォームして、窓の無い座敷牢みたいな(笑)テレワーク部屋ができたのでテレワークがしやすくなったんですよ。

＜米持＞テレワークは住環境が大きいよね。我が家は2階の元の子供部屋が空いていて、その点では快適だけど、娘のところとか小さい子供がいると大変らしい。

＜平井＞家族に聞かれたらマズい話がそれほどあるわけじゃないけど、言いづらい話とかあってあるなあと。

＜上村＞改めて家族の新しい一面を発見したりとか。

＜平井＞対面じゃないと微妙なニュアンスが伝わらないので余計に疲れるかも。それもあってか、年齢が上の人たちのほうが会社に出たがる傾向が強いかな(笑)

＜鈴木＞私は、大学の教員と企業研修の講師をしていますので、コロナで影響を受けて仕事のスタイルが大きく変わって、大学の授業はすべてオンラインになりました。一番大変だったのは、先が見えない中でとにかく学びを止めないということで、準備しても状況が変化するのでまた作り直すの繰り返しだったこと。今は自宅からオンライン授業、会議で週1回くらい大学

に行ってます。担当がグループワークの授業なので、Zoomで小グループを作り、パソコン上でポストイットワークをするという進め方ですが、上級生の中には来年度もオンラインでもいいという意見もあって…。これからどうなるかはなかなか決まりません。



鈴木浩子君(58 文)

＜平井＞動画配信だと、自分の好きな時間に聞けるし、何度も聞き直せるという良さもあるんですよ。

＜鈴木＞学生たちは、大体1.2倍速くらいで聞いてますよね(笑)。ただ1年生は大学に全く来ていないので、コロナが収まって、ちゃんと登校できるのか。

＜上村＞私の姉も大学教員なので、自己管理能力がある子とそうでない子で、極端に差が出てるって。

＜鈴木＞差が大きくなってますね。

＜平井＞他の学生と接する機会がないのも問題ですね。

＜米持＞学生もそうだけど、会社でも周りの人の背中を見て育つっていうのがないんだよね。教える側も様子を見ながら教えることができない。

＜平井＞大変ですよ〜。

＜鈴木＞大学はこのコロナで変化したことは、元には戻らないし、新しい大学ができてきていると思うのですが、ビジネス界は元に戻るんですか？

＜平井＞どうでしょうか。完全に元には戻らないとは思いますが。オンラインの利点もありますし。

＜鈴木＞学生たちには、世の中も変わるし、あなたたちが「オンライン元年」の人たちだから、いま取り組んでいることは役に立つよと言ってるんですよ。オンラインでも機微を伝えられる人が育っているのかもしれないなど。

＜一同＞なるほどね〜。

＜米持＞今年は新入社員研修が無かったんだよね。基本的な知識を学べないのもあるけど、同期のきずなが作れないのは可哀そうだね〜と先輩たちは言ってる。



米持一夫君(55 経)

＜上村＞上の人たちで言えば、評価が難しくなりますよね。何で評価するのかっていう評価基準が。

＜込山＞企業の中もそうですけど、学生さんの評価も難しいですよ。試験とかどうするんですかね。

＜鈴木＞レポートにしているところが多いですね。オンライン授業は家族が聞いていたりするんですよ。

＜一同＞興味津々ですよ〜(笑)。

＜鈴木＞ずっと在宅勤務でストレスはたまりませんか？

＜米持＞太りましてね。ずっと家にいると何がつかいかというと、会社の帰りの寄り道ができなくなった。

＜平井＞お腹すかないから昼とかあまり食べなくなりました。会社には行きたいですね。仕事しやすいし。すれ違ったときに情報交換もできるし。

＜込山＞僕は精神的には平気です。基本的に朝早くから仕事して定時には終わるということにしていて、自分の裁量で進められるので、ストレスはない。

＜一同＞それはいいですね〜。

＜鈴木＞学生だけでなく社会人も自分でコントロールできないという感じですね。

＜米持＞これからますます変化しそうだね。皆さん、頑張りましょう。今日はお疲れさまでした。

構成：鈴木浩子(58 文)



## 人物発見

川上真司(H1 経) 由紀(H2 商)

48歳で重度身障者になった夫。失業の危機を乗り越えフルタイムで復職。その感動とノウハウを多くの方に広めたいとデイサービスを開所した塾員夫婦



私共夫婦はほとんど東京都に近い川崎市在住です。では、なぜ調布三田会に？と思われるでしょうが、それは西調布(下石原1丁目 旧甲州街道沿い)にリハビリ特化型デイサービス「グッドリハ 調布」を立ち上げたことがご縁です。

夫は約5年半前、48歳の時に脳出血を発症し、左半身麻痺の重度身障者になりました。多くの患者仲間が失意の失業の中、夫は3年間の懸命のリハビリで障害者枠ではなく通常フルタイム復職を果たしました。

さらに、その感動とノウハウを多くの方に広めたい！と、私が常勤の社長、夫は出資者として元の会社勤務を継続しつつ夫婦で思い切って起業いたしました。とは言え、本稿では三田会の会員としてのお話を。

私、川上由紀は、中野生まれ千葉県育ち、国立付属小中学校で伸び伸び育った後、これまた自由な慶應女子高に進みました。高校はテニス部、大学は準体育会のテニスサークルでしたが、現在の主力の運動はマラソンなどの長距離です。始めたきっかけは夫の仙台赴任に同行し、仙台の地で友人の輪を広げたかったからです。調布三田会でも駅伝チームがあると伺い、その一員として走ることを楽しみにしております。

夫は名古屋生まれですが父の仕事の関係で幼少期は年齢以上の引っ越し続きで幼稚園を中退(笑)。何とか東京で落ち着き、実家は世田谷です。普通部から慶應に進学、音楽特にクラシックやミュージカルが好きです。調布三田会で鑑賞会などイベントがあればぜひ参加したいと申しております。

仙台在住時には東日本大震災に遭遇し、夫婦ともに現地にてそれぞれの持ち場で復興に携わりました。その時に慶應義塾の絆の強さに大きく励まされました。

また、結婚披露宴で鏡開きを行った日本酒大好き夫婦でもあり、コロナに負けず飲み会のお誘いは是非！



## お知らせ

- 新入会員紹介(会報44号以降、入会順)

川上真司君(H1 経)、川上由紀君(H2 商)、  
深浦賢一君(H22 法)

- 今後の予定

5月中旬頃 総会

8月下旬頃 サマーパーティー

- 会員名簿改訂版

近々発行予定です。

- 新入会員募集

知合いの塾員に調布三田会への入会をお勧め下さい。

問い合わせ先・連絡先：幹事長 池田勝彦

Tel : 090-9954-5788

Email : katsuhiko.ikeda@gmail.com

## 編集後記

長期化するコロナ禍で公式行事や同好会活動が中止になるなか、皆様のご協力で会報を発行することができました。今号では、調布三田会活動の工夫と会員の活動の一端をご紹介します。会報が調布三田会のつながりを深める一助になれば幸いです。

米持一夫(55 経)

編集委員：

(編集人) 米持一夫(55 経)

(委員) 益子淳(43 法)、鈴木浩子(58 文)、  
込山俊博(60 理工)、上村美紀(H1 文)、  
米持一夫(55 経) 平井信太郎(H1 文)

(写真) 寺川 毅(41 経)

(顧問) 石黒良昭(41 商)

